

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700049		
法人名	医療法人三善会		
事業所名	医療法人三善会グループホームふるかわ (東ユニット)		
所在地	愛知県津島市古川町2丁目55番地		
自己評価作成日	令和2年7月13日	評価結果市町村受理日	令和2年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2392700049-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年8月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族様の面会、地域とのつながりを大切に思っています。ご家族様向けにふるかわ新聞を発行して、できる限りホームでの様子をお伝えし、面会時もゆっくりくつろいで会っていただけるように努めています。現在、新型コロナウイルス感染予防にて外出や地域との交流は控えています。毎日の散歩を行い、食事メニューも職員で作成し、入居者様の好きなものや季節感を取り入れた食事・手作りのおやつ・室内レクなど、外出できなくても皆様に楽しんで生活していただけるように努力しています。食事は嫌いなもの、苦手なものがある方へは、代替えの食材を準備や、刻む、また病状に合わせるなど個別に合わせ準備しています。ご希望される時はできるだけ生活していただくために職員一同の力を合わせます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニットの廊下には手作りのお地藏様が鎮座しており、利用者が毎日お参りするとのエピソードにはパーソン・センタードケアを定着させた事業所の真摯な取組みが集約されています。コロナ禍で日常に溶け込んでいた老人クラブとの交流や外出支援もままならなくなれば、速やかに「室内レクリエーションを充実させましょう」と声をあげ、模擬喫茶で懐かしのクリームソーダを堪能、その後食べるレクリエーションが頻回になると「食べるために動こう」となり、お菓子バイキングには屋内周遊を組み込む工夫も見られます。平均介護度2.1にも助けられ、前向きな職員集団が黒子となって明るい笑い声が満ちる場所がつけられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当時の職員で理念を考えた。ユニットリビングに飾っている。入居者も職員も共により多く笑い実行できている場面が多いと思う。また、ユニットごとに1年間の目標も立てている。今年は、「散歩に出かけましょう」。ユニットの掲示を見て意識するようにしている。管理者からの押し付けではなく皆で共有できてきた。	事業所理念は利用者、家族、職員に浸透しており、ねんど細工のレクリエーションで来訪する先生が理念を現した置きものを制作くださった例もあるほどです。ユニット毎に理念に基づいた年度目標をもち(本年は両ユニット同じもの)年度末に振り返りをおこなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開覧板にて町内の様子を知らせている。散歩のときには地域の方との挨拶や声をかけてくださる方がいる。畑で作った花や野菜を届けてくださる方もいる。	資源カフェ(資源ごみをだすと喫茶飲食のポイントが貯まる)を通じて利用者の社会参加となればと考えていましたが、コロナ禍となって途絶えておて、終息が待たれています。継続できている散歩では挨拶だけでなく、花や野菜をもらって帰ってくることもあります。	古川町老人クラブも活動休止中でお互いに寂しい状況にあり、絵手紙程度のお便りのやりとりが可能となれば、なおよいと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年老人クラブの会合にて認知症の説明や予防への取り組みのお話などしていたが、今年度はまだ行っていない。民生委員さんからも見学等のお話はいただいているが、予定はまだである。新型コロナウイルス流行にて現在は控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の時にプロジェクターにて写真を写したり、ユニット新聞を見ていただく、リビングで会議を行うなどホームの日常が伝わるように工夫している。できる限りユニット長にも推進会議に参加してもらい直接意見交換ができる場を設けている。意見は議事録でも職員に伝え取り組みや改善を伝えている。	3月、5月の運営推進会議は人は集まらず、管理者が活動の様子を報告書にまとめ、市役所へ議事録として提出するに留まっています。7月は再開でき、従来通り市役所、地域包括支援センター、民生委員と意見交換が叶い、プロジェクターで様子を伝えて安心に実っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所が近いこともあり、担当職員には管理者から相談や質問もしやすい。メールでのやり取りも必要に応じて行う。	更新や申請代行、議事録を届ける程度ですが、市役所窓口は大変親切で訪ねやすく、運営推進会議には毎回出席していただきます。本年1月には実施指導もあり、書類の記入漏れの指摘については速やかに是正しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度会議を行い、推進会議へ報告している。研修も年2回は行い、各自身体拘束をしないケアに努めている。夜間以外はドアの鍵はかけないが、不穏な時などやむを得ないときもある。入居者様の希望で隣のユニットや玄関に行くなど自由にできていると思う。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1度開催し、現場の事例検討を通じて廃止に向けた仕組みを担保しています。また年2回の研修とともに、新入職員の研修プログラムを別途用意があり、「なぜやっつけられないか」を問うていて、こちらも丁寧に整備されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの中で疑問がある職員同士で話し合っている。管理者へ疑問を伝えたり相談できている。管理者が時々新聞記事を掲示しているので、内容を確認し意識している。高齢者虐待防止関連法について自己学習して理解している職員もいる。常に人として尊敬しているという対応を心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度やその他必要な申請、手続きなどはご家族様の希望に応じて管理者にて対応・支援している。制度について職員が学ぶ機会には設けていない。制度を理解している職員もいるが活用してもらう機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より契約時に説明。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に様子を伝えたり、管理者から聞き取りをしているが、職員もご家族に話しかけ聞き取れるように努力している。	「ふるかわ新聞」は各ユニット毎に隔月発行していて、作成は職員が輪番でおこない、自己紹介を写真やメッセージで届けています。アンケートの、「職員と利用者の会話を聞いていると、家族も学ぶことが多い」との言葉に円満な関係が集約されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別機会は設けていない。意見や提案があれば、管理者へ相談している。いつでも相談できる環境にあると思っている。職員全体での意見交換の場がない。	施設内は大変清潔で、日常の活動が手に取るように判る素材が目につき、総じて職員の気働きが蔓延していて、異動となって着任した職員が「管理者がとても話やすい」「職員も和気藹々としている」と語る内容からも、風通しが良いことが観えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも見られるようになっている。ユニットごとに職員の役割や担当を決め実践してもらうようにしている。休憩時間の確保、有給休暇の消化もできる。日祝出勤の手当て、主食の提供など従業員に対して温かい法人だと思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外への研修参加あり。ほめるときはしっかりほめ、ダメな時はどうしてダメなのか理由を教えてくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で他事業所職員との交流の機会が持てたが、新型コロナウイルス流行にて現在は控えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の面接や家族からの聞き取りで事前に情報収集を行い、職員に伝わるようにしている。入居者様からの困りごとなどお聞きして、ほかの職員と共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談があれば、管理者にも報告、対応している。不明な時は管理者から確認してもらったりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多様な方法を伝え、選択していただけるように努めている。ご家族への報告を細かく行い、安心していただけるようにしている。また入居間もないころは管理者へも密に報告、相談しより良い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	距離を置かず、何でも話し合えるように心がけている。親密になりすぎないように心掛けている。ともに笑い会える関係づくりに努め、本人の興味のある話題作りを心掛けている。生活の中のできることは続けていただけるように努めている。教わることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時はゆっくり話ができるように努めている。ふるかわ新聞を発行したり、写真を掲示し様子が伝わるようにしている。行事などご家族にも参加していただけるように案内している。(新型コロナウイルス流行にて現在は控えている。)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔よく行った喫茶店への外出。家の近所へのドライブ。ご家族とペットの面会。ご家族の面会時はくつろいでいただけるように努めている。会話の中でも住んでいた地域のことや仕事のお話を聞くようにしている。新型コロナウイルス流行にて外出は現在はほぼできていない	月1回墓参りの日を決めている人は、思い立ってプラスαで「行きたい」と言い出すこともあり、職員総意で業務調整しています。また小学校の先生だった人は黒板に馴染みがあり、食事のメニューの書きだしを毎日お願いしていて、これまでの事が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの交流の機会を持ちみんなで話ができるように声をかけている。全員でのレク。面倒見の良い方をお願いしてよい関係ができるようにしている。トラブルが起きないように配慮。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設や病院へ管理者や職員にて面会。施設職員への申し送りや、退所後に家族から電話相談をうけ制度や方法を伝えるなど管理者にて支援している。職員にてアルバムや作品を作成して届けるなどする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1にてゆっくり話を聞く機会を作るように努力している。本人の意向をほかのスタッフにも伝えるようにしている。ケアプラン作成前のアセスメントでご本人や家族の意向を聞くようにしている。	職員は朗らかな中にもゆったりリズムで利用者に接しており、意向が生活の中で表出しやすい環境にあることが受けとめられます。「散歩に行きたい」「今日は曇りだから行けそうだね」「一人じゃ寂しいから誰か誘いましょうか」と、本人本位で穏やかなやりとりも視認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家での家具や大切にしていたもの、写真を持ってきていただく。生活歴・アセスメント表を確認するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる限りの希望を聞く。その時に応じて起床時間をずらすなどなどの対応。朝の健康チェックとあいさつ時の反応を見て過ごし方、対応を決めている。表情や動作から読み取る。ケアプランにて24時間の日課計画を作っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度ケアカンファレンスを行い、職員同士での意見交換、本人、家族の意向を取り入れられるように努めている。モニタリングは毎月行う。それ以外の時は適宜記録に残し職員で話し合っている。小さなことでもアイデアを出し合いケアに反映させる。	介護支援専門員3名、計画作成担当者6名と有資格者が多くいて、また管理者の方針で「誰もが介護計画書を作成できるように」が推進されています。ケア表など補足的資料も備わり、職員の見識・知識が培われていることが伝わります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事や変化を中心に記録し、また、記録を読み情報収集することで、職員間での共有を図っている。口頭でも伝え、申し送りノートの活用もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ほしいものがあれば一緒に買いに行ったりしている。外出先なども希望を聞く。散歩や入浴などもその時に応じた気分に合わせているようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人クラブの方を招いて交流会を行い、また毎月大正琴ボランティアの受け入れもしていた。(2月まで)。スーパーマーケットへ一緒に食材を買いに行った。(2月まで)すべて新型コロナウイルス流行にて現在は控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の支援。希望の病院受診への支援。ご家族との受診時は、管理者にて結果を確認。病状や内服など必要なことは管理者から職員へ周知している。	3名が従来のかかりつけ医を継続しています。他15名の内、定期受診を望む場合は、母体病院へ職員が通院介助をおこなっています。医療情報は管理者(看護師)が把握のうえ、「介護記録」の中に「受診等」という欄を設けて、職員間で情報共有させています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	様子の変化や気になることなど看護師に伝え、対応を確認している。看護師不在時は変化があれば、24時間電話対応してもらえ安心である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院受診や入院の時は管理者(看護師)必ず付き添い、状況報告を行い、入院後も訪問し入院先の職員に必要な情報を伝えている。東ユニットでは1月以降入院した方はいない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明し、病状変化時、悪化時など主治医と相談しながら、家族に希望の確認をしている。終末期の迎え方も多様であることを伝え選択してもらえるように心がけている。	契約時とともに重度化に向かっていることが確認できた時点で家族と話し合っています。看取りの希望があれば受ける考えであり、家族も「最期までここで」と常には言っていますが、重度化や急変があると「病院で…」ということが大半のため、看取りの実績はありません。	(職員は前職においては経験者かも知れませんが)看取り実績がないことから、職員間で話し合い、看取りへの考えや段取りなど共通理解としてゆく機会を設けることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での救急救命講習へ順番に参加している。法人内の研修への参加。新型コロナウイルス流行にて現在は控えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練だが不十分。訓練に参加しても不安はある。水害時対応のマニュアルを配布しチェック。備蓄はあるが近隣との協力体制はできていない。地域との協力体制はできていない。	隣りの地域包括支援センター2階が水害の避難場所となっています。「訓練を早めにおこないたい」として2名で階段をあがる担架を購入するとともに、非常口からの段差をなくし、砂利からコンクリート塗装にする工事も予算化され、今夏には着工予定です。	(コロナ禍終息後)訓練については、近所の皆さんに加わってもらうことが難しい場合は、運営推進会議メンバーに立ち合ってもらったことも検討ください。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄のことなど人前で大きな声で話さないようにしている。入浴時に羞恥心への配慮に心がけている。言葉遣いには気を付けている。馴れ馴れしい言葉遣いにならないように気を付けている。	距離のある場面では、職員同士で声が大きくなってしまうこともありますが、「小さなことができてないと大きな問題、事故につながる」として、都度管理者から注意指導しています。介護記録の書き方は、ほとんど丁寧語で真摯な姿勢が感じられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ入居者様の希望をお聞きする。散歩、入浴など無理強いないように心がけている。わからないときは家族面会時にこれまでの生活について確認し参考にしてている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日、どのように過ごしたいか聞くようにしている。職員のペースで決めないように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度美容院。毎日の男性の髭剃り。毎日朝身だしなみを整えていただく。寝ぐせ直しスプレーを使い髪を整える。希望の方には毛染めを行う。気候に合わせた服装にできるよう声掛け。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理したり、盛り付けをお願いしている。職員が順番にメニューを作成し、入居者の好みや希望、季節感を取り入れるように工夫している。	ユニット毎に(訪問日も肉系と魚系と2種類あった)献立表を作成し、職員の手作り調理です。メニュー考案者と作り手が同一人物ではないため、アレンジすることも許されており、利用者のリクエストに耳を傾け、野菜カットも手伝ってもらうなどして独身者の学びにも実っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の量、食べにくいものを刻むなどその方に合わせた調理、嫌いなもの時は代替えのものを用意する。月1回の体重測定。水分はこまめにとっていただくように努めている。夜間のお茶提供も行っている。糖尿病の方への配慮もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き。義歯の洗浄、消毒、歯ブラシ等の定期的な消毒を行っている。マウスウォッシュを利用する。拒否された場合は時間をずらして促す。歯や口腔内の異常があるときは歯科受診している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て誘導する方、様子で促す方など、個々に合わせた方法で支援している。排泄確認表を活用している。少しでも尿パットを外す時間はないかなども検討している。	排泄チェック表を確認しつつ、リズムを把握して声かけをおこない、失敗を減らしています。パットが必要な人もいますが、12名が布パンツです。「数時間でも外せるなら」と、パットの有無もまめに対応しており、本人にも家族(費用負担)にも嬉しい配慮があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝牛乳を飲んでいただく。水分、乳製品、果物など多くとっていただく。水分摂取の機会を増やす、お茶だけでなく、アクエリアスやジュース、ココアなど飲みやすいものに変えたりして多く摂取していただけるように工夫している。薬に頼ることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限りの希望に合わせた入浴時間。入浴剤を3種の中から選んでいただく。今日は入りたくないといわれたら、無理に入浴しない。時間を変える、職員を交代する、散歩の後で誘うなど気分を見て誘うなどタイミングを工夫する。	毎回湯を入れ替え、浴剤の種類も用意して好みのもを選んでもらっていますが、「私は入れない」とさら湯の人もいます。介助が必要かどうか職員の都合は関係なく、入る日や時間は本人が決めており(清潔の目安は1日おき)、毎日入る習慣の人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせて対応。昼食後居室にて休む方もいる。眠そうにしているときは声をかけて居室へ促す。眠れないときなどはソファでお話したり、飲み物を提供するなど安心していただける工夫をする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報がカルテにあるので、それを見て理解する。効果や副作用など理解できていない薬もある。便秘薬などはその時に合わせた対応を看護師に確認する。不明な時、拒否のあったときは看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、調理、盛り付け、パズルやそろばん、数独、作品作り、メニューを書いていただくなどそれぞれの得意なことをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の外出、家族との外出。散歩はユニット目標でもあり行っているが、それ以外の外出は新型コロナウイルス流行にて現在は控えている。	コロナ禍で外出が思うようにできていませんが、例年ならば、大きな数珠を廻すのが楽しみな観音寺のお参りや喫茶店が恒例行事として位置づけられていました。津島神社の初詣は1月なので行けましたが、現在は、2つの散歩コースを暑さを避けて周遊することが唯一のお出かけです。	外食も難しい状況なことから、テイクアウトやお取り寄せで懐かしい味や各地の産品に触れる機会があると、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者様がお金を使う場面がない。預り金で好きなものを買っていただけるが、職員が支払っている。現在は買い物に出かけることを控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば手紙を書く、電話を掛けるが、現在希望する方がいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	仲の悪い方同士が近くにならないようにしている。カーテンや空調でまぶしくないようになど配慮している。好きな音楽をかけたり、歌番組をつけ過ごしていただく。壁に季節の作品作りを行い、飾る。窓を開け換気する。	リビングにあるオリーブの実と葉の模様のカーテンはグリーンがベースで色鮮やかでいて柔らかく、見ていて和みます。レクリエーションの写真や利用者が日課とする日めくり、訓練成果が一目でわかるものが掲示され、3人がソファにそらまめのように並ぶ姿に和みます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどでくつろいでいただく。不穩になった方がいるときはトラブルにならないように職員が間に入る。廊下の奥にソファがあり、時々一人で座っておられる方を見かける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や慣れた家具を持ってきていただく。本人の生活習慣に合わせたものを持ってきていただく。化粧クリーム、ペンとノート、など。布団を干し、シーツ洗濯など気持ちよく過ごせるように支援。	編み物が得意な人は居室のカーテンタッセルを作ってくださったり、ひ孫の写真を大事そうに飾ったり、孫の好みとわかるピンク色の小物が沢山ある部屋もあって、その人らしさが伝わるものが持ち込まれ、家族と職員に大切にされている様子が滲んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な方は、居室にセンサーやコールを置き、安全に過ごしていただけるように配慮。洗濯室(洗剤や消毒剤がある)や浴室、など危険な場所は施錠している。洗面所にハンドソープなどを置かず(誤飲防止)職員がここに持ち歩き使えるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700049		
法人名	医療法人三善会		
事業所名	医療法人三善会グループホームふるかわ (西ユニット)		
所在地	愛知県津島市古川町2丁目55番地		
自己評価作成日	令和2年7月13日	評価結果市町村受理日	令和2年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2392700049-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地
訪問調査日	令和2年8月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族様の面会、地域とのつながりを大切に思っています。ご家族様向けにふるかわ新聞を発行して、できる限りホームでの様子をお伝えし、面会時もゆっくりくつろいで会っていただけるように努めています。現在、新型コロナウイルス感染予防にて外出や地域との交流は控えています。毎日の散歩を行い、食事メニューも職員で作成し、入居者様の好きなものや季節感を取り入れた食事・手作りのおやつ・室内レクなど、外出できなくても皆様に楽しんで生活していただけるように努力しています。食事は嫌いなもの、苦手なものがある方へは、代替えの食材を準備や、刻む、また病状に合わせるなど個別に合わせ準備しています。ご希望される時はできるだけ生活していただくために職員一同の力を合わせます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニットの廊下には手作りのお地藏様が鎮座しており、利用者が毎日お参りするとのエピソードにはパーソン・センタードケアを定着させた事業所の真摯な取組みが集約されています。コロナ禍で日常に溶け込んでいた老人クラブとの交流や外出支援もままならないとなれば、速やかに「室内レクリエーションを充実させましょう」と声をあげ、模擬喫茶で懐かしのクリームソーダを堪能、その後食べるレクリエーションが頻回になると「食べるために動こう」となり、お菓子バイキングには屋内周遊を組み込む工夫も見られます。平均介護度2.1にも助けられ、前向きな職員集団が黒子となって明るい笑い声が満ちる場所がつけられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当時の職員で理念を考えた。ユニットリビングに飾っている。入居者も職員も共によく笑い実行できている場面が多いと思う。また、ユニットごとに1年間の目標も立てている。今年は、「散歩に出かけましょう」。ユニットの掲示を見て意識するようにしている。管理者からの押し付けではなく皆で共有できてきた。利用者さんやスタッフさんとは毎年餅つきやカラオケ、ホーム内にお招きしてお茶を出し交流していたが、新型コロナウイルス流行にて現在は控えている。回覧板にて町内の様子を知ることができる。散歩のときには地域の方との挨拶や声をかけてくださる方がいる。畑で作った花や野草を届けてくださる方もいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年老人クラブの会合にて認知症の説明や予防への取り組みのお話などしていたが、今年度はまだ行っていない。民生委員さんからも見学等のお話はいただいているが、予定はまだである。新型コロナウイルス流行にて現在は控えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議の時にプロジェクターにて写真を写したり、ユニット新聞を見ていただく、リビングで会議を行うなどホームの日常が伝わるように工夫している。できる限りユニット長にも推進会議に参加してもらい直接意見交換ができる場を設けている。意見は議事録でも職員に伝え取り組みや改善を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所が近いこともあり、担当職員には管理者から相談や質問もしやすい。メールでのやり取りも必要に応じて行う。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	3か月に一度会議を行い、推進会議へ報告している。研修も年2回は行い、各自身体拘束をしないケアに努めている。夜間以外はドアの鍵はかけないが、不穏な時などやむを得ないときもある。入居者様の希望で隣のユニットや玄関に行くなど自由にできていると思う。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアの中で疑問がある職員同士で話し合っている。管理者へ疑問を伝えたり相談できている。管理者が時々新聞記事を掲示しているので、内容を確認し意識している。高齢者虐待防止関連法について自己学習して理解している職員もいる。常に人として尊敬しているという対応を心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度やその他必要な申請、手続きなどはご家族様の希望に応じて管理者にて対応・支援している。制度について職員が学ぶ機会には設けていない。制度を理解している職員もいるが活用してもらう機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より契約時に説明。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に様子を伝えたり、管理者から聞き取りをしているが、職員もご家族に話しかけ聞き取れるように努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別機会は設けていない。意見や提案があれば、管理者へ相談している。いつでも相談できる環境にあると思っている。職員全体での意見交換の場がない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも見られるようになっている。ユニットごとに職員の役割や担当を決め実践してもらうようにしている。休憩時間の確保、有給休暇の消化もできる。日祝出勤の手当て、主食の提供など従業員に対して温かい法人だと思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外への研修参加あり。ほめるときはしっかりほめ、ダメな時はどうしてダメなのか理由を教えてくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で他事業所職員との交流の機会が持てたが、新型コロナウイルス流行にて現在は控えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の面接や家族からの聞き取りで事前に情報収集し、職員に伝えるようにしている。入居の金額や良い点と同様に入居の悪い点もお話している。居者様からの困りごとなどお聞きして、ほかの職員と共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談があれば、管理者にも報告、対応している。不明な時は管理者から確認してもらったりしている。入居間もない時期やお試し利用時などは特に密に連絡、様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多様な方法を伝え、選択していただけるように努めている。ご家族への報告を細かく行い、安心していただけるようにしている。また入居間もないころは管理者へも密に報告、相談しより良い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできること、したいことを把握し家事などの参加につなげる。一緒に家事を行っていただいたときは感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時は伊つくり話ができるように努めている。ふるかわ新聞を発行したり、写真を掲示し様子が伝わるようにしている。行事などご家族にも参加していただけるように案内している。(新型コロナウイルス流行にて現在は控えている。)家族の面会を入居者と共に喜ぶ。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔よく行った喫茶店への外出。ご主人の命日に合わせてお墓まいりに行っている。他施設へ入所中の知人への面会支援。ご家族の面会時はくつろいでいただけるように努めている。会話の中でも住んでいた地域のことや昔のお話を行くようにしている。新型コロナウイルス流行にて外出は現在ほぼできていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方、合わない方があり、配慮している。レクリエーションへの参加を促す。心身の状況や気分、感情の反歌など観察し性格や愛称を考慮して孤立することなく快適に過ごしていただけるように支援に努める。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設や病院へ管理者や職員にて面会。施設職員への申し送りや、退所後に家族から電話相談をうけ制度や方法を伝えるなど管理者にて支援している。職員にてアルバムや作品を作成して届けるなどする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望をお聞きして対応している。生活してきた環境や苦勞などお聞きし意向の把握に努めている。把握が困難な方へは職員間で話し合い情報共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や、環境は把握に努めているが、入居前のサービスまでの把握はできていないこともある。半年ごとのアセスメントの再確認、月に1度のモニタリングは行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の健康チェックで様子を把握し状況に応じて決めている。その方に合った趣味(編み物、お花、パズル、塗り絵)や希望を行えるようにしている。自席で何もせずに過ごす方もいて、どう過ごしていただくか困難さを感じることもある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	4か月から半年ごとにケアカンファレンスを行い、話し合っている。それ以外にも気が付いたことは職員同士で話し合い、ケアに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の中での発言や行動で気が付いたことは記録する。時系列の記録で職員は出勤すると記録を読んで情報収集してからケアに入る。口頭での申し送り、申し送りノートの活用。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に適した方法を工夫している。夫のお墓参りなど。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人クラブの方を招いて交流会を行い、また毎月大正琴ボランティアの受け入れもしていた。(2月まで)。スーパーマーケットへ一緒に食材を買いに行っていた。(2月まで)すべて新型コロナウイルス流行にて現在は控えている。近所の神明社への散歩程度。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の支援。希望の病院受診への支援。ご家族との受診時は、管理者にて結果を確認。病状や内服など必要なことは管理者から職員へ周知している。体調や症状に合わせて適宜必要な科に受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	様子の変化や気になることなど看護師に伝え、対応を確認している。看護師不在時は変化があれば、24時間電話対応してもらえ安心である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院受診や入院の時は管理者(看護師)必ず付き添い、状況報告を行い、入院後も訪問し入院先の職員に必要な情報を伝えている。東ユニットでは1月以降入院した方はいない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明し、病状変化時、悪化時など主治医と相談しながら、家族に希望の確認をしている。終末期の迎え方も多様であることを伝え選択してもらえるように心がけている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での救急救命講習へ順番に参加している。法人内の研修への参加。新型コロナウイルス流行にて現在は控えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練だが不十分。訓練に参加しても不安はある。水害時対応のマニュアルを配布しチェック。備蓄はあるが近隣との協力体制はできていない。地域との協力体制はできていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いなど職員向上注意しあっている。視線を合わせ笑顔での対応を心掛けている。トイレ介助や入浴時の配慮、プライドを気付けないように心がけているが、ついっかりの言葉遣いに気を付けている。入居者を呼ぶときは〇〇さんで呼びし、ちゃんや省略して呼ばないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ入居者様の希望をお聞きする。散歩、入浴など無理強いしないように心がけている。わからないときは家族面会時に今までの生活について確認し参考にしてている。今日何かイベントはあるの？どっか行きたい。と言われることはある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日、どのように過ごしたいか聞くようにしている。職員のペースで決めないように心がけている。何かを誘い断られても時間を置いて確認する。編み物、生け花、塗り絵など好みも様々で一日を大切に過ごしていただけるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝髪を結ぶ、整える(寝ぐせ直し、ウィッグをつける)よう支援。白髪染めや季節に合った服装と一緒に選ぶなどする。季節に合わない服装の時はさりげなく声をかけ居室へ誘導する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員がメニューを作り、好みや季節、行事を取り入れるようにしている。咀嚼力を考えた、食材選び、調理方法を工夫する。入居者様と一緒に調理、盛り付けを行う。おかゆやブレンダーでの調理を行う。ボードにメニューを書き楽しみにしていただく。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューに偏りがいないか不安な時もある。召し上がる量の少ない方には、盛り付け時方、切り方、器などでの工夫をしている。夜間水分摂取していただけるように、お茶を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	マウスウォッシュを毎回使用している。食後残差物の多い方にはウェットティッシュでケアし薬のみで洗い流し洗浄するなど2人でケアを行う。口腔内の清潔を保つ工夫をしている。必要な方には仕上げ磨きを行う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合わせて支援する。排泄チェック表の活用。パットを外せるかの自立支援への検討。表情や態度で把握する。頻回に行かれる方にも対応し、言葉かけに注意する。安易におむつやパットや紙パンツを使わないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝牛乳を飲んでいただく。水分、乳製品、果物など多くとっていただく。水分摂取の機会を増やす、お茶だけでなく、アクエリアスやジュース、ココアなど飲みやすいものに変えたりして多く摂取していただけるように工夫している。薬に頼ることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限りの希望に合わせて入浴時間。入浴剤を3種の中から選んでいただく。今日は入りたくないといわれたら、無理に入浴しない。時間を変える、職員を交代する、散歩の後で誘うなど気分を見て誘うなどタイミングを工夫する。曜日は決めずにできるだけ夕方にも入っていただけるようにする。毎回お湯		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を見て、入浴や散歩、行事などでの疲れ具合を見て早めに休んでいただくように声をかけるなど一律に時間で声をかけるなどしないようにしている。無理に寝るように促さず、夜、テレビを楽しんでおられるときは一緒に楽しみ会話するよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はカルテにはさんであるが、すべて理解しきれていない。薬について不明な時やわからないときは看護師に確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	華道の腕をいかしてリビングや玄関にお花を飾っていただく。得意な編み物で鍋敷きなど作っていただきいろいろな方にお配りし、喜んでいただいている。洗濯物たたみ、調理、食器ふき、盛り付け、パズル。感謝の言葉を伝えるように知る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の外出、家族との外出。散歩はユニット目標でもあり行っているが、それ以外の外出は新型コロナウイルス流行にて現在は控えている。喫茶店に行けないので、ホームの中庭でコーヒーを飲み、気分転換。早く自由に外出できる日が来るといいと願うばかりです。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金があることを理解しており、買ってほしいものを希望される方もいるが、本人が支払う場面はない。年に1回ほど化粧品の購入を希望している方へは行きつけの化粧品店に同行する。時々食事の時などにお金持っていないからもらえないよねと心配される方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方については朝ご家族に電話をかけてお話していただいている。年賀状のやり取りする方が1名おられる。電話や手紙を書くことへの支援を時々行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンでまぶしくないようになど配慮している。ソファの座る位置など配慮する。好きな音楽をかけたり、歌番組をつけ過ぎていた。壁に季節の作品作りを行い、飾る。窓を開け換気する。空調の管理。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどでくつろいでいただく。気の合う人同士で座りおしゃべりされる。廊下の奥にソファがあるが利用される方は少ないが、たまに座っておられることもある。奥のトイレや洗面所を好んで使われる方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や慣れた家具を持ってきていただく。本人の生活習慣に合わせたものを持ってきていただく。化粧クリーム、ペンとノート、など。布団を干し、シーツ洗濯など気持ちよく過ごせるように支援。紙パンツ等居室に置く方は布で目隠ししている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な方は、居室にセンサーやゴールを置き、安全に過ごしていただけるように配慮。倉庫や浴室など危険な場所は施錠している。腕などに内出血しやすい方へはアームカバーをつけていただいている。居室入り口に写真やのれんを置きわかりやすいようにしている。		